



笑っちゃう本



高井戸 YA 新聞 2022 年春号(40 号)

～苦笑、微笑、爆笑、etc…、色々な笑を楽しめる本を紹介します～

『生きものの持ちかた その道のプロに聞く』

松橋 利光／著 大和書房



身近な生きものから、一生持つことはないのでは!?
と思うような珍しい生きものまで、様々な生きもの
の持ちかたをひたすら説明する珍しい本。
生きものにとっても安全な持ちかたではあるのだ
が、持たれている時の姿にはちょっとクスツとして
しまうもの…。生きものたちの、かわいい・おもしろい表情もご堪能あれ。

『最後の秘境 東京藝大 一天才たちのカオスな日常』

二宮 敦人／著 新潮社



只者ではない人間が集合している場所、東京藝術
大学。天才たちの日常は、凡人の理解をはるかに越
えたカオス（混沌）なものだった…。
ネタとしか思えないほどキャラが濃い学生たちへ
のインタビューで構成。当時声楽科の学生だった、
King Gnu の井口理さんも登場しています。

『#名画で学ぶ主婦業』

田中 久美子／監修 宝島社



Twitter で話題を呼んだ、“主婦
あるある”の日常の 1 コマを名
画で表した大喜利系ハッシュタ
グ「#名画で学ぶ主婦業」。それ
らの投稿内容に各名画の解説を
纏めたものがこの本です。
クスツと笑いながら美術の知識
も養える、学生の皆さんにはまさ
におススメの一冊となっています。
続編も出ていますので、気に入
った方はぜひそちらもどうぞ。

『時をかけるゆとり』

朝井 リョウ／著 文藝春秋



直木賞作家であり、ゆとり世代の
「朝井リョウ」が、自らの学生時
代を振り返って書いたエッセイ
集。何でも無いような日常生活も、
彼の観察眼と文才をもってすれば、
たちまちおかしな日常と化す。
こんなくだりなくも、愉快的な学生
生活を送ってみたいと思わせてく
れる、爆笑必至の作品。何となく
ゆううつだったり、不安な時にこ
そ、読んでほしい一冊です。

『太陽の塔』

森見 登美彦／著 新潮社



冒頭の二行で早くも明らかな、
主人公「私」のひねくれ具合。
そして、ろくな人間が一人も出
てきません。京都の街を舞台
に、学生たちのこじらせた妄想
がぶつかり合い、不毛な出来事
ばかりが巻き起こります。
森見登美彦のデビュー作にして
作者のエッセンスがぎゅつ
と濃縮された一冊です。